



特別
児童
3979
8



門 凡 士
號 3979
卷



和州舊跡幽考目錄

第十一卷 芳野郡

衣野山 付 蛭膳祭事
青垣山
芳野川
宮川
南帝王社
晴小野
衣野皇居
玉水龍宮古

金御嵩
耳我嶺
大臺原
投地藏堂
晴蛉小野
秋津野
龍御門
瀧浦



昭和二十七年
三月十八日

多藝津河内

三船山

箕箕川

浪柴野

宮瀧付 岩龜亭

目境野

象小川

象山

本善寺

雙墓

遊副川

西川瀧

老魚張

司馬野

清川系

妹背山

梯木宮

猪養山

六田淀

今來寺 付 一木梯

四手掛社

比蕪寺 付 再真事

千本梯 付 梯苗賣亭 ○山花園 ○谷梯田

○隱松 ○山井亭

藤尾坂

藏王堂

威徳天神社 付 伯大噴

金澤嶽

朝原

左樾明神社

水分山

松山御茶屋

金鳥居

四本梯

合亭 ○塔成杭亭

實城寺 付 茶入亭

老水院

勝手明神社

袖振山

後醍醐天皇陵

布引橋

龍橋

中院谷

世尊寺付樟木像

人丸墳

子守明神社

多菴上人遺像堂

多城山

如意輪寺

椿山寺

夢遠觀音堂

雲井橋

鐘銘 ○ 靈鷲山 ○

御子守神

祀供職法事

躰踏毘

遠谷

金情大明神

青根我拳

蔚嶽付良菴上人

師事

蟻門渡

寧都婆

小篠

小池宿

古屋宿

岩倉谷

安禪寺

菴清水付西行橋

海峯寺付廣恩法

堂原寺

天川

山上付鐘銘事

篠宿

魚いぢ乃宿

姨捨峯

子種嶽

屏風立

児多

轉法輪寺

神仙

事

天野川白飯寺付

丹生山

天野丹生神

賀名生

東屋峯

行者坂

三重龍

釈迦嶽

笙窟付日藏上人

大峯

葉平朝臣入定事

丹生社

國標付國標翁事

銀寺

十津川付温泉事

泉杣

弓弦葉三井

東野

大峯開基付後小角事

延喜式神名帳

湯原

龍門寺

安野

郡垣原

和列舊跡幽芳第十一卷

長野郡

西南の紀伊國にありしと云く東は伊勢國よほりて大和國の三河が二河に郡あり

長野山

芳野山の七高山の三河あり松林ありは金御藏又の金峯山又の国軸山と云くなり作吉野山の目録上人乃傳よの天竺佛生國の三河と云くなり松林ありては中と云く又もろあり乃立臺山乃春の橋くけく雲のりて松林ありと云くは中納言乃きけ乃由塔の由乳文と云くは龍と云く

口

卷十一

四

さき又眞崇禪師よりありし金峯山
也しく金剛教主菩薩乃傳授あり
そ山日本國よ越えりて金峯山也なり
也

▲貞觀元年の秋蝦蟇也ひ出ぬ殺と云
や梅も来りぬへて山すもさくしあき六
夜東朝長山蔭儀岳朝長川人等宣言
とらけ修りての出づらひやれ由たり
残もろ乃祭礼と清淨の地と云らぬ乃回
仰もまの茅野郡乃高し是と云こ
り同ぬ二月も色茅野郡乃山あり
祭り三代実録よりなり
三茅野の山下風乃をきく高野寺今書

行乃越くいさな高野山西方のほりあり
後乃高野乃山蔭儀岳朝長川人等宣言
花と見てのりはきく高野山人なりなり
みよきと云はけ代よ高野山の心ん高野寺也
遠乃高野の山蔭儀岳朝長川人等宣言
建仁元年十一月十五日
新撰和歌集
春の長川梅はあきし春はなむめり
いめで二河乃山あり春はなむめり
人のまむと云ふも高野山と云ふも
ぬはぬと自ひあり高野山乃高野寺
山家
本下ののびぬと云れ高野山乃高野寺
高野山乃高野寺と云ふも高野寺

小段中室取集

青野山に世乃外にのれ奉く伴くたはひとあつ

金部 金部 蔵

水ぬぐ等又あまの奉又水ひきせとを
よあり源氏物ごりよみこひさうしとさう

金奉山の皆黄金あり急なる世乃時同浮提乃
地よのへあまんとして後王控現乃ゆりしを給ふと
拾芥 しり一文字乃七条よらうらありみこひよ
ゆうてくまらゆき行て見道と金のやうして
ありきりひやうまうして神よけいそ家よ
えりまうようらぬる程よ七八千ゆひよそあり
あるも比捨地遠使る人東大寺の佛けり
ひとと世くろまうとあまのありそれと

よ行てり乃らうく誠實をりうそらんとしてひりせ
ゆきの細字とて金蔵くせとくくよか記流
きこりゆのあり奉めりあまんとて帝よ奉り
けきまらうら代わてせあまうしてせのせ
後へのあうくせあまよのうよ十日くらりあり
てぞ死する為の金奉山よそぬし給ひをり
やあり中後 水色又聖氏天皇乃御座よ
良井僧正は山の金銭のまんや金剛 後金よ
ひのらまうとを神是銭のり 徳のん也秋
書よらんくぬ利
三を野乃ゆ金書よのほむとぬもゆふの
雪はぬぬもゆふ未畧
物もひ記のり上はぬと金山蔵よ雪やりあり願取

神の... 善通山

山の異名... 或人

安見知之神... 神

芳野川... 神

表垣山の山神... 神

花の神... 神

福川の神... 神

もろりてけ... 神

反致

山川... 神

吉野の實... 神

耳我嶺

或人曰... 山

吉野川

三吉野... 山

八雲刺... 山

小山より越後道乃姨が拳せゆふるふ
乃をぶくのた乃方めして思わす
おのぬあまわりの海して人乃道ふ
ももわりの兵ひとひりく津秩をど
高く志をり放るはうらひ背ひて
沈るやせう乃水ありその中よひと
て巴う剛をどせよふあ何のとうや
うやけをその志をり乃霧あはりて
川の氷果とありおよりやけを越後
水と海一西よりゆけを伊勢乃
なぐれとそへ東よりやけを
るきおりのとあり

大臺原

山家集

宮川

若野川そ入水止は為ぬむじらふ
隴麓なる若野の真乃
若野川いみなる也大臺原より
田村塩乃紫村よあつりて
おそくけゆへよ俵のあ村と若野川
乃みなるもやとつりあやゆりなる
塩の島村より西よりあがき西川の
末と紀伊の海よ入るあり
和国村より東の川乃水よ川上乃
投地

投地

柳投地後... 役優婆塞... 金峯山... 乃後... 涌... 摩乃... 益... け... へ... 優婆塞... 飛... 是南... へ... へ... 是南帝王の社あり

南帝王社

當社... 芳野... 其... 佛... 此... の... 蜻蛉小野

蜻蛉小野

は... 蜻... 文... 此... 是南帝王の社あり

新後撰

所集もあり

東后集

ふけり小の野又ふけり乃の野又ふけり小の野又

あふ川乃の野辺をゆつゝあり

蜻小野

万葉

三芳野乃蜻乃小野よりなりやせみひをかくてぬまの

三芳野

秋津野

万葉

三芳野のさけりし世の女は花あはれく病は心とて後撰

万葉

三芳野乃宮より行幸乃時柙本朝臣人麿

同

三芳野の秋津乃川の百世も有り幸あり又ふけり

同

詞林採葉曰蜻乃小野へけり乃小野のち乃小野三割あり

同

柙秋津乃小野の雄畧天皇四年より一野の宮

柙秋津乃小野の雄畧天皇四年より一野の宮

又行幸をり後ひく川上乃小野ゆて将人よ
先繼ひるもの射後ひると納給ふよ
此鳥事りて天皇乃臂とくひひる六をり
後給ひるて此とくひひく飛ゆり天皇
ゆてゆりこせせりゆて群臣よ勅をく
給とるるくうてあやむを後ひく
ゆてゆり人あ天皇ゆはまきびり

さい海門也後猪ゆがまき世海我立まきゆ
所よ竹系あがりまゆ此本そのあ海と其此
あ死のゆ乃らひ蜻蛉まふひも昆虫ゆゆき
みよ大表ま門海ふ謂はあがわらり名取とん
置あまゆゆと秋津ゆゆゆ大和ゆゆゆ
ゆあせ後ひくゆり爰の地代蜻蛉也て後給

をけ給

は後給ゆあ累してあゆり日本紀
よゆりあり細字ハ新日本紀よゆり
も乃あり

在野皇居

は後秋津乃小野乃ゆりるるべし秋
津乃宮也とあり

新野乃宮ゆゆ乃ゆ代よ立後ひくゆ
代神武天皇芦原中津國代ゆゆを後ひ
るんとく西乃國より難波ゆゆゆゆゆ
内ゆり射約山代越るんとゆゆゆゆ
體度ゆゆありきゆ玉連目命と君とゆ
て天皇代ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

伴の國武強く在野よありと後ひて出軍...
やのへ後ひて行營乃字くありき...
其後伐く乃所乃皇居の有至あり...
は法も應神天皇昔野乃宮より行幸あり...
もは國柄人三才代なる也あり應神天皇...
あよ在野乃宮とてありき幸し勿悔あり...
又大泊水天皇在野の宮より行幸あり又...
皇極天皇在野乃宮より行幸ありて...
さあめ又後見系天皇在野乃宮より行...
幸ありし由て

又元正天皇養老七年六月在野の離宮より行...
幸の時皇朝臣金村

同 羨在野乃林深の宮の神々や貴くらん必...
くらくん海海くらん山川成はげくもあり...
うへー神世ゆきめけりしも

同 山乃向本綿花よおら 涉津池乃川内へん...
万葉 神代より在野乃宮乃ありしも

ハ山川成 けある神世よりとあり 愛知ぬ神武天皇...
火乃柏原宮よりありし時乃在野よ離宮と...
く海へく臨幸ありけるよあり 神代よりと...
神武乃在字とされありし一尊不念その...
才四乃在子ありし一神代也とあるものなり

よや 詞林 採葉

龍御門

もー秋津乃宮はたあるよや
西よりあり晴嶼が
てあはれうよまじり

東乃游の山門もあも
一目よみ子なるゆりし東乃游のみぞと入るぬの同

玉水 龍宮古

秋津の野の遠乃宮
山乃のやうううう玉水乃游の宮古

今乃水と解ぬ玉水乃游の宮古
今乃水と解ぬ玉水乃游の宮古

龍浦

台野川河波多守龍浦半不視

もーは草曰游乃浦と宗
是但又まふ不審りもあ
游の裏と云はれと云

多藝津河内

秋杭よ大和國と云

三芳野乃游津河内乃春風
三芳野乃游津河内乃春風

遊副河

仙覺抄のよ川を野よある川
ありうよよは遊川と云

万葉

魚張乃夏来乃人の出をくぬはるも月影の影

万葉

浪は東野

史

我乃乃浪来乃人魚張乃波来乃影の影

史

魚張乃の浪来野乃秋風来乃浪来乃影

司馬野

八雲乃清野藤橋来大和國と云く波来

万葉

野同乃るるべた

酒柄等若来乃人司馬の野乃影の影

宮野

いふもんよゆふとく

後撰集

山家集

宮乃影も若来乃影の影

新六

宮乃影も若来乃影の影

家よ屏風来とてゆふとくそづとく

いふあり銅鏡百文来あへぬ影の影

巖乃乃上りりそこあへぬ影の影

入るる影の影来とてゆふとく

清河系けりりり

清川系

沈月秋来白清川系在縁不限影の影

定一所乃若来先達秋来久来生

清河系の秋来若来所の影

今按是乾万葉集才九秋在野篇

万葉集の

同の

毎年の

目映野

亭子院宮跡と水傍にありて
水もに流るる河にありて目づく野也
此水鏡と名する

新物撰

妹井山

宮跡の西上市村乃東にありて
源一合と名する古跡とありて
河海折と名する山に紀伊國に妹井山の山
とて古野川と名する河にありて
の山あり又顯住密勤八雲山折と名
乃ありてと名する紀伊國にあり
萬法二の乃春飛を井井章の古野川

てよいもせ山鏡ありて

うに中乃と名する河にありて

象小川

宮跡よりありて本に宮にありて
外象乃橋鏡よりありて象乃小川と名
本乃宮のありて象山のありて
よそにありて

万葉

芳野山と名する山にありて
象乃小川と名する河にありて

橋本宮

花乃ありて色乃と名する河にありて
やと名する山にありて
乃と名する山にありて

象山

八雲山抄より象山象山中山よりさへ
りり山と色山みり野より近江とあふ
心ありまことなる所よりあつたとき
撰者所芳野郡と多々仙覺抄を野の

山中より象山ありと云々

象山の山より象山中山よりさへあふ
史本よりあつたとき
大和源より近江の近江より象山中山霊物として行家

猪養山

飯貝の山より上中村の川むらひり

ありぬれり山の本善寺北近江平あり

ぬる雪とありにありそを隠乃猪養山

本善寺

本善寺ハ親鸞上人八世蓮如上人乃建云あり

芳野山と海なる川に流るよと云々人宅より飯貝蓮如上人

六回院

六回乃乃の事もあり云々野川六回院と云々

友太と海なる山と風吹く六回院は雪の山よりなり

めて船に乗りええと杖とひれ河乃なりよさ

海より船ひり二仙来りてをまよとくわ

とくまんとまよとくわとくわとくわとくわ

本とまよとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

とくわとくわとくわとくわとくわとくわ

所成後... 八乃子母... 天皇乃孫... 聖寶僧正... 乃下... 乃下... 乃下...

雙墓

仲範の心... 今本野... 潜谷... 野川

の古... 乃南... 乃南... 乃南...

雙墓... 父大長... 乃墓... 乃墓... 乃墓... 乃墓...

あげ... 心乃... 乃心... 乃心... 乃心... 乃心...

今来寺

今来寺... 又... 乃心... 乃心...

今来寺... 乃心... 乃心... 乃心...

今来寺... 乃心... 乃心... 乃心... 乃心... 乃心...

實小生銭うきん後山をくくひわうきうきうて
則うあよ行きり山をく比船崎く人縫路く
寺色あり一長後の事とこのみく樹乃下よあり
をるがそ軟西方より光来りこりあやしや也
翌日行て見れよ大巖の上よ石板ありて
高塚埋苔藓松上よ生こりよの石西乃散
葉成拂ひ苔銭のあひぬきこバ海動三の像と
えりはけけり人ユ乃りきよあうん別荘舎
と建く久くところひくはよ祥雲あり
ア〜とありとありあり
一坂也山ふ所乃橋一本道乃行もよあり
三芳野や橋もよ分合々山はまうく白春内雅章

四平掛社

四平ヶけ乃明神法おぐみく

芳野山花のゆめでけ海もくあは神心とを雅章
四平ヶけよりた四又町を流く水分山の

水分山

山乃乃代もありきむ流氷よあぐれくあ
世と砂原あり

神はゆる岩縁已疑敷三芳野水分山と分合
三芳野の水分山乃陸津津色末とひの流分

比蕨寺又現光寺とひり額ハ栗天八一
比蕨寺 叙目 比蕨寺 叙也 けり
比蕨寺 叙也 けり

新玉林

苗代（新玉林）のりよけ観ありあり（時代）
河（新玉林）のり推た天皇三子四月沈水（時代）
香漢海（新玉林）のりよりくまありそ乃大さ一園あ
了浦人沈水香（新玉林）のりは兵衛よ海へく
ゆりくそ乃ありひをきくく海りきる程よ
也あや（新玉林）のりゆみゆまありを中日本聖徳
太子是の沈水香（新玉林）のりくそ乃実ハ難た乃
どくその花ハ丁子そのあ梅ハ薫陸あり水
よ沈めて久しと沈水とひ水よ入く久し
くぬ沈香也（新玉林）のりやうく養一絶ひくく水門
もああび（新玉林）のりて観る乃像法はくくせ
在野乃比蓮寺よま久終ふよ時く光明とん
るの終也あり（新玉林）のり現光寺乃終あり

新玉林

真真ハ弘安二子金峯山より聖人奉りて来
真あり西大寺乃真正菩薩戒法代とく終て
津院也あり（新玉林）のり太子やうく盤石やうく又破
壊して苗代くものくのこまあり
田子耕より終本揚はくく長岑と
終く大六山一終五堂又長岑乃葉師
堂あり
松山沖茶屋
文禄三子二月廿六日豊長幕下花乃水が
終よく終のり沖茶屋乃終ありは時の水
終世よのありて一巻あり
是より多武の華より通あり

り役行者乃遺像あり

四本橋

四本橋の真代昔のいそ

由乃乃橋より流るる三巻の橋

威徳天神社

威徳天神の靈なり自益上人社と

自益上人天慶四年八月一日金峯山の麓

ありて死せしむる威徳大政天乃流

よありしなり神勅よきく乃乃任

そゆてきき種く乃神徳ありて乃後

本由よりりてあま福く流布よ

我像とけり我名と唱へて懇懃よ

多は我よりて擁護よありと上人金峯

山よりりて蘇玉権現よありと

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

ありしなり於後よ威徳天の

行ふ致丈八尺の金の居金剛力士乃二階の門
水野大神の社七十二間乃廻廊三十八間あり
は蓮王堂一時乃多ありやるれ太平

▲編年 堀川院寛治七の九月九日金峯山乃寶殿
美上帝王 森真あり

▲編年 蓮王捨現は定朝が遠進し狛犬社殿乃上よ
嘆命く大床より落たりや威表記よりあり

▲編年 金峯山乃塔成乾乃徳養義暦三の十一月と
叙書よあり

金御嶽

金乃御嶽と芳野山乃異名ありてつら
ては安代とそひふありめ志高井雅章
の安ありて

志高の記は新羅の志入おのひ乃御嶽の地ありよ

蓮王堂より西より実城寺あり

実城寺

実城寺又ハ金輪寺と云ふ後醍醐天皇乃宮
居よゆと云ふれは此代よこそ水鏡也南朝と
りてまてくそ号ありと別よぞ作り安ありて
新葉和歌集ありて云ふらび徳ひ又天皇此
所く葉入十二代さゆ由せ終ふ或ハ女一と云ふ
そのくより葉野よひとて世よ金輪寺と云ふ
まあり深野中ひひありと勅化もく徳れは
よのせ金輪寺ありひひとて葉湯ありとあ
りて

蓮王堂より一町たり代よりく賦天山

東乃こよ朝系あり

朝系

續後撰集

芳野山麓立ぬるまのりや釣の原よりこれした

衣水院

衣水院と源義経居人せありせば院に入給
ひしが衣院心づかりし程よまのひおく申院若
よ此身とくう一給ふそれもつるひごうまて依
友忠信誠のありとこれ静を控とれ多氏奉
友室十字坊よそ入給ひけりは院と豊長幕
下乃衣の山あが先もも旅籠也ゆごめ給ひ
けりれとる衣寺乃り海へまてゆりひり後
醍醐天皇宸より抄筆ありて此枕あり
衣の神くくりや衣野のより衣枕乃り衣のるる

衣水院乃西より行くと衣の方よ入臺寺又
橋本とて苗山乃先達大奉修乃宿坊
あり

依拋明神社

ゆふ紀の神乃山記此紀也ゆふと天の
紀うたりしよりゆふとくよりゆりしは

さゆふにゆふが神乃山記此紀也ゆふと天の
紀うたりしよりゆふとくよりゆりしは

勝平社

勝平の神ハ愛髪命也天孫臨降乃時世二神
相そひくあゆまざりまれば次は復國後思よく
多ゆふと世二神也ゆふ愛髪命ハ勝平大の
神也六十四又文治元自靜法系乃静法系ハ
一袋衣ありびよ源義経乃澄るや宝蔵よ

おさ海より又後醍醐天皇賀茂生乃近へ
ゆせ後小勝乃乃宮の前代とあり由せを

大勢のひるにけきてとらひてし勝神の
師系十首

三芳野や川の宮の山馬神は
神後山

右よ山紀山たよ神後山は山乃乃上
良志山やせん天女舞より神後

山の若あり紅と色神後山よ対く
たにみどもよ流くぞゆり

先花の類聚より未劫因式の對馬の
よあり式と大和玉存る山ありと

葉折よ心くすとたらうが神あり
山乃乃あり亦分明あり

山乃乃あり可葉集より十二卷よ
川の中よもろりたより亦あるものあり

八雲の折よ心く芳野よありと
降臨の所後よ由來あるものあり

今於芳野乃神後山也
ももあふん本朝胎令よ心く

あらしん本朝胎令よ心く
吾野の宮よ心く

心く真ありなり
くらまらよ心く

くらまらよ心く
て曲よ心く

えん天乃時衣の神
新海

し女子ぐとせめゆびととらと我は彼よゆた
ととあさびとものせととひきると前乃舞乃
根源あり又神振山ととては是は時乃り
勝乃乃宮乃り押乃若よ如意橋あり

如意輪寺
塔尾山如意橋寺の本寺如意輪観音菩薩
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

乃乃意圖あり後醍醐天皇乃震業
金峯山如意輪観音菩薩
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

班那禪客安居
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

慈風扇境四流湯
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

碧樹集雲
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

風月澄心文道祖
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

目藏聖感瑞夢
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

兩山掃境古仙跡
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

行積僧袂鑿末世
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

後醍醐天皇南朝廷
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

不豫乃由事あり
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

ては乃同十八日
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

堂の良なり林乃
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

向乃葬なり同十一月
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

後乃由若とまり
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

乃乃延玄標乃
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

大政天為教海祭
四海船流權化神
威政魁類縛其身

如意橋寺乃り乃り乃り乃り乃り乃り

後醍醐天皇南朝廷
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

不豫乃由事あり
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

ては乃同十八日
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

乃乃延玄標乃
如意輪あり心射子乃鹿よ香野より終野

人野田四郎子息二人西川子息國地良四

後留半座紫花臺 待我同修同行人

願以此切德平等施一切同發菩提心往生

又

安樂國中正行業錢よりこゝれりるを

椿谷椿山寺

椿山寺ハ日蓮上人乃修行乃地あり上人云
古の人云十二中してくさり成るる一者つけ
通賢法師也云云時延花十六日二月

そきよりして極致致しておのの精修と
殊死きこりそ時母衣乃や海ひのせれとわの
まこととらむとえある海とてたづよの修り
東寺うして密教致るるひ 釈 後 芳野山
更よへく 修 密 教 乃 後 修 り 也 也 釈 書

布引橋

布引乃橋をなす振より谷乃庭まぐさ死
此にたてくらくゆりぬ

布引を引たてしめて芳野山衣よあまの花の

兩師夢遠觀音堂

行幸法をせ給ひ一も雨や徳よりされど

は里と丹生の川上程りてめく膳よふ身氣

は雨より一里をり川下よ丹生大明神

乃社あり観音堂と稱し西乃堂あり
搦雲井搦中龍橋あり

此の寺の地を記し其の跡を記し三島山大徳

雲井搦

雲井搦の石よびひくまぬよんて傳りぬ

此階の人びとて其の教を傳りて其の跡を記し

中院名

深義神少とて其の跡を記し其の跡を記し

ぐれ跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

又忠信ゆき其の跡を記し其の跡を記し

世尊寺

世尊寺と稱し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

其の跡を記し其の跡を記し其の跡を記し

▲鐘あり鏡曰保延くわんぬま庚申かうえん十二月三日
年朝臣忠盛あきと多く保延くわんぬまより延寶七
年遠凡とほぬ百四十一ひゃくしよなりけし天竺靈鷲山
よひよひに靈地れいのくゆりともや
月清

警乃山しやうの山やま法ほふのの庭にわよりり花はなのの爲ためになるる也
警乃の尾乃しやうのくくりりよよ人にん乃の墳ふんあり
良徑

子守社こまゐり

子守神こまゐりの大宮三座おほのみや在あり同林どうりんあり
一宮いちみや 美上みかみ
記

乃後のち毎ま真ま八十はちのの心こころなり

鳴なりり山やまのの芳野ほうの乃の社やしろなりり也なり也なり
三芳野さんほうの山やま梅うめととありり也なり也なり
大徳
雅章

御子守神ごこまゐり

澄月すみづき秋あき枕まくらよよ子こ守まゐり神かみ也なりけりりままりりは

子守こまゐり同どう社やしろ也なりなりり也なり也なり
神かみ者もの長なが也なり

長野ながの水みづ介すけ神社やしろとあり文字あざなよよららば別

實まこと一ひと徑みち家やしろよありり也なり也なり

よせよせららままへへ

清きよ乃の納のり也なり
ありありあり今いまもも人ひと也なり也なり
新六帖
ありありあり心こころのの末すえ也なりありり也なり
大徳
雅章

子守乃社こまゐり

美上人遺像堂みかみ

美上人みかみの後のち向むか川がわ院いん乃の也なり也なり
乃の也なり也なり
よ妙たへんとありり也なり也なり
二月一日乃の也なり也なり
乃の也なり也なり
け上人上人のの也なり也なり

城山しろ

依よ山やま也なり也なり
大塔宮おほのたかみや乃の也なり也なり

西やしや又はドグ電たづね遠とほ衣の色は山の思は作ら
塵ちり版ばんとと変へりてまりけれとうん

万葉三芳野の高城の山の白雲は山の松は所の松は
拾玉三芳野の高城の山の白雲は山の松は所の松は

郷ごう國くにの色をまるくもく物まじらば

およあへの音ね乃の花はとられし井の清はくの名な
遠谷およあへの音ね乃の花はとられし井の清はくの名な

とはらる乃の花はいぬりぬる乃てはしを花はり
ひしこぬる乃やうよ見くぬまじらば

そのぬらりぬまじらば乃の花はとられし井の清はくの名な
農倉谷そのぬらりぬまじらば乃の花はとられし井の清はくの名な

農倉山の文ふ乃の東とう西さい南なん乃のまるくあらる也あり

拾芥乃の花はとられし井の清はくの名な
乃の花はとられし井の清はくの名な

金情大明神社

金情大明神乃の靈たま乃の依たげ山乃の金を
乃の靈たま乃の依たげ山乃の金を

安祿寺

安祿寺乃の遺い像ざうと安墨すみ乃の金を
安祿寺乃の遺い像ざうと安墨すみ乃の金を

青根我峯

青根我峯乃の入いり山乃の青根我峯あり
青根我峯乃の入いり山乃の青根我峯あり

せし高ありやうりうりうらぶれちりりまはせし
よみしとのまのむじあまのんく

花よりておひきまのむじあまのんく

まのむじあまのんく

たき西川乃崎へ乃通踏衣は山よの海

道あり是らり山よの海

よしくゆりや

薛嶽

薛嶽よゆあやう良等上人と園東乃人

より法花後補してゆり水の淡よりそ

やしくゆり朝霧よりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

これ鬼神事りて果荒と信ト天女海乃て

礼拜とあててあやうの塩乃時ゆりゆりゆり

あやうの塩乃時ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

海峯寺

海峯寺は山崎より乃廣恩法師乃修持寺

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

堂原寺

堂原寺は山崎より乃八月天女の

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

えりり

吉野山乃麓は都藍屋に女仙あり金峯
山を黄金乃地ゆて後五権現是乃由り
給ひく女人との傳う先後乃に我女人が
毎仙術と云ふりゆりゆりの傳うはあらんや
とく大峯若行乃道よくる俄に神ありぬ
ぬり風志たりゆて通縁と云ふりそこよ
とく杖とぞまきくこのまきその杖杖と云
大木ゆるゆ又呪とまきく物とまき物事
ぬきばそまきようち業く行ぐ爰まきりて
新とまきみえゆまきと都藍屋はゆやまき
ゆりて最とまきゆまきとゆまきゆまき
まきくまきんまきり新はゆはゆまき入り
し爰乃ゆりもやゆりあまきゆん

し爰乃ゆりもやゆりあまきゆん

是より山上大峯は秘所あまきゆありと云
人ゆりようちゆりゆりゆりゆりゆりゆり

驛門渡

山家集

色ゆりまきゆりゆりゆりゆりゆりゆり

天川

長秋詠藻

吉野山花やちるもあまの川雲つて霞つて白波

平都

平都院乃行ありまきくゆり平都院まき

乃ちりりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

里まき人ぞうちあゆまきゆりゆり

山家集

表ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

山立

寺領子拾三石

山上慈王堂文慈王權現ハ彼優婆塞金峯山
よ一予日ありて生身乃産地乃乃後山
地慈乃乃形乃乃地より湧き一後ハ是優婆
塞乃心よりありぬゆ一ありて地慈王伯耆大
大由よ飛あり後ハ記を後大勢念持乃記
とありつ一衣乃由平よハ三張紙少終り隣
成ゆ一けたたの由よハ五指とものにて由
とありて後ハ一眠夫よいりて魔障降伏
の禱成志乃一あり一ありて天地の
總持とありつ一後ハり示現乃貌あり
乃神よりり後ハり太平は時人王九代宣
化天皇三多よあり優婆塞也一六十
ありありびよ十ハ童子清ありそ八

大童子と大拳よとらふ事少と
禪師宿多
輪宿笙若
山水飲吹越 七六童子とらふ記乃拳よ
とらふ事是より清あり乃穢とらふ事
羅抄
そ色より乃像と穢長乃中一穢とらふ事
乃乃秘とんぐとあり優婆塞也天曆の
帝上村ありとありとあり二とありとあり
色三乃安垂一とありとありとあり
列よ志免一とありとあり一此とあり一
三予世果よありとありとありとあり
とありとありとありとありとありとあり
利生乃ありとありとありとありとあり
三乃靈驗あり太平
清あり清懺ありとありとありとあり

和
卷十一
七十一

寺乃淡日遠は國佐野郡原田長福
寺天慶六年七月二日と云く延寶七年
九七百三十七年なり

はてあま二の乃道あり南よ向あま大拳
乃通路西りわち天川乃通路小藤へ
一里なりなり

小藤

小藤乃とありやと云く病きげり

山家集

かきほり小藤乃病よまひりつりわち小藤へ西行

藤宿

馬屋純

山家集

ゆくり乃と云くゆくり
藤の病も常る月西行

小池宿

同

小池宿と云くゆくり
ゆくり乃藤宿もゆくりと云く通る月西行

魚つら乃宿

魚つら乃宿と云くゆくり
魚の病もゆくりと云く通る月西行

病の病もゆくりと云く通る月西行

同

右屋宿と云くゆくり
右屋宿と云くゆくり

ゆくりと云くゆくり

山家集

神母乃月乃宿と云くゆくり
神母乃月乃宿と云くゆくり

晴松亭

晴松亭と云くゆくり
晴松亭と云くゆくり

山家集

拾遺草

嬖於公氣乃... 三芳野也... 予權嶽

山家集

介く行... 東屋拳

山家集

神... 屏風... 改

乃... 春乃山... 改

山家集

乃... 三重遊

同

三重乃... 葉乃...

同

葉乃... 情...

同

乃... 友...

同

新... 又情...

山家集

卷十一

十一

うらみぬく傳寺代焼有情と宣よりそ重
 罪我身よりけくやうくそあ母本園より
 て一万の卒都婆と流り信養して我若恵
 とこまけりよとの宣下とけ給り心叙又都
 卒内院とえあがり聖流の妓よとさう
 終よ十三日代流く蘇生よりそ後の都
 卒内院の樂と執朝よけえく鬼佛國法
 樂也号と又乃流よの樂のありありに
 えぬる曲ありとこさけり日登上人と樂産
 院の御子あり或表乃上人安乃器座よ
 とあまひ給ひさる比もやありとむ鬼神事り
 ちとけりてしやう我人衆よあり時遠根
 よのりて鬼乃形也やうく四の百歳と流り

そくく現乃素くまぐく今根と動よりなる
 心乃けくぐの極樂又の天上も色生さるんぬ
 と量億切乃首成うくは新やとひひも
 ちくぬよあめ厚くわく山乃真もそ入る
 そ後上人の乃けくわぶ念記奉とこさけ
 よこそとあうひ給ひられ宇後指遠

大奉

金葉

大奉

もろたよ秘やむ山楊花より卯よまるとる倍正行る

玉葉

大奉

何より山乃と急い勝やうで雲は入新奉風流倍正行る
 山よりの系八十町成をりねまは端端り最
 屋とらんく流川よひる海大奉能行のん乃

鎌倉

天川白飯寺

琵琶山白飯寺の役行者大奉化道成ひて見え
とくく見は山の中へ霊跡とひり終りよ山
よ冷水源をぐれ神霊閃光たりるに廟は
琵琶乃響ありて人心乃迷雲成神ひり
琵琶山也号なりその後法大師乃千目乃
とこあひもを弁天女現下終りくバその
像とまごみ神霊とあきらめ今乃本
る是なり弘法大師伽藍遠美より九八百
年靈驗日くよ威と御利益をくも地と
てあつりしをの勸進
好色乃先達業平朝臣芳野の川上石窟

天川也いさなりあましく入定あり也縁起も
ゆりり河海折あり廟せしや入定乃地
や

丹生山

山と下市村乃西よあり丹生川
とそ色よりあぐれおく昔野川
芥とりて丹生乃捨山乃本ありさく機
亦作二梶貫磯橋回下流はくひんれ左
わぐに三巻野乃勝やうり記おはるまは
丹生乃山氷然くも川波も厚のくもさるん
神とててたぬの川本をわきぬし水の金初丹生
ひ存る丹生川殿乃柳さひぬまのまらさこの後海
丹生社

右寺
同
草根
山

丹生の神一座あり延喜式神名帳より青野郡
 丹生乃川上神社也あまきと丸一座とあり
 御も三代実深より大和國丹生川上七社よ
 奉幣乃りて御りてありてありてありてあり

丹生社の周象女神也伊弉諾並高野過越
 乃てあよやうきく神名ひねさりあんと
 終乃乃乃乃神直山姫おのび水神周象女と

は社よ為河を霖とやめし後への初使
 とててててて奉幣にたるとあまきと丸一
 えり

人王四下代天皇天皇白鳳甲より山陰を
 より延喜七より延九百七十四より
 神武天皇乃御宇より先磯城と云ふ賊ありてか
 軍代磐余乃むらよそあへく道とぬをけり
 みむら乃軍とぞりぬぐ道と一神武天皇
 あまひとてて乃神よ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 瑞後ありて乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃むら又乃尾張乃むらよ八十有衆師
 人ありみむらとぬと記すくひあんとおれ
 天香山乃おとやりて天牟奈
 之土
 皇也やうて天津原より國津やうり
 丹生乃ありて乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 皇のよと人よとやうりて乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 らあび終ひく推根津養と記す

兼方曰平賀者感信神物
 兼方曰
 山黨八

ちよははるり才積たけ女めお記おきる乃のまごころよあ
 て天香山あまのやま乃のおとせりり集あつままこころまごころあ
 り海うみりり一ひと賊軍ぞくぐんともり乃のまごころとまごころ
 大おほよまごころひあれんあやとまごころ道みちは
 ろりて海うみるせまり山やまよまごころてお記おきり
 ろりぬそのおとせりて八十やそ平ひら倉くら天あま乃のお扶たす
 八十やそ牧まき嚴いそ倉くらと兼兼方方曰い天あま者者例れい文ぶん乎乎者者以以乎乎作作
可可我我勝勝之之象象遊遊于于土土爰爰系系諸諸神神之之義義也也兼兼方方曰曰嚴嚴重重之之
義義倉倉者者土土純純也也今今世世神神今今食食新新嘗嘗祭祭等等供供神神物物陶陶器器
土土是是け目目縁縁や九九嚴嚴倉倉者者祭祭神神之之也也云云之之德徳也也
 氏うぢりりて丹生にの川がは上のの海うみりり天あま神かみ地ぢ
 神かみとまごころひまごころ後のち小こ菟う回わい川がは乃の較くら原はら中のちてあ
 り後のち小こ我われ今いま八十やそ倉くらとまごころまごころまごころあり
 能よ和わ若わ抄抄曰いとけりり後のち人ひと能よとありをば貴たかる

後のちも天下あまのつちとまごころるんまごころ所ところり後のちま
 とありぬ又また嚴いそ倉くら後のち丹生に乃の川がはよ志こころの志こころんよ
 一ひと奥おく乃の大おほ中なかつとまごころ辭ことばてまごころまごころ人ひとは
 故ゆゑ乃の葉は乃のうりひまごころまごころあつるまごころ
 け玉たま氏うぢゆゑ志こころんやらひ後のちひく倉くらと川がはり
 志こころ乃のめま後のちまよまごころ下したよむらひまごころあ
 りまごころ奥おくまごころれうりひまごころ推おし根ね津つ彦ひこうる
 魚いさなとまごころくくまごころ奏そう一ひと乃のまごころよ天あま皇みかど大おほまごころ
 あひ後のちひく丹生に乃の川がは上の乃の立た面めん筒つつ真まこと地ぢ本もと
 と後のちあつるてまごころ乃の神かみとまごころひ後のちひし
 まごころあつるまごころ嚴いそ倉くら乃の置おきあり
日本

天野丹生神

天野丹生あまのに都みやこ始はじめ天照太神あまのてら也なり海うみ乃の也なり

丹生川乃末よまに故より丹生郡と稱り

今一郡乃若りよ故あり

國標の條も心もよまに故より山乃葉とより
くひ穀類は煮くくも死あがりひもせり
けくも毛跡とぞひけり國標ぐもあま
もやあのみ山おゆく厚くして若野乃川上
乃拳はぐく管ぬくまく道ひせせたく
あぐりりけきとまやあよゆいでくも
もきぬぞゆり應神天皇十九日十月一日在
野乃雲よ行幸あり終少よ國標人三寸
とまりて秋くふ
このまの所若よまに故はたり造也

よこまに横白也あれ醸也お月御月也み御也ゆ
らに也ま也さ也ら也り也て也國持也謂とせ也飲也肉也り
ぐり也丸父也やらん也ひ也り也て也は也り也て
あまの死より厚り又お毛錢なる目よ秋く
とひとりてはりてあまの死より是を
國標がひあ乃遠則あり是より糸赴土毛
なり死より糸乃ものま粟園ありひよ年
真乃也ひ也り也日本代と強く津見糸
天皇大傳王子也龍衣れて若野乃真の若野の中
よあまとくはせ強ひま國柄乃糸粟丸
は料よりひひあめ糸真錢えく倍出よ
まより六眼帝位よのゆりま糸や倍出とを
めされんや世傳しめされけりよりけりえ

四十一

日乃水祝も之國栖存もいなり桐作も風風の
衣衣末と後りりて舞けり也名や豊明も前も
け氣もいりて粟乃水料よろらひ乃真河也統
よなる殿より國栖也めされぬきと声よ
て水あえ入をりて苗と吹くまのありけ
存りいりぬはみ前も後る幸あり也あり
感表

記 遠津川等野は國栖乃水と比をいへる夜の夜よ

賀名生も天川乃氣あり後醍醐天皇文在紙
藤山世終ひくく水少とく水世終も亦乃り
太平記より

銀考

賀名生乃真銀も獄也山ありて在野乃
軍の宮合戦乃り太平記より

十津川

十津川乃温泉も縁起二通あり是也
めえ水色も藍觸とありりる大塔二
品親王山外乃りりりてあり也世終ひく
十津川も水着あり一傳て作原八舟入道
の場よ戸野も衛とひひ人乃家よまがく
入を後ふり太平記よりそ乃末葉今乃世
よもあり

遠津川等野は國栖乃水と比をいへる夜の夜よ
三善野乃山のおろり乃十津川の河川也

湯原

湯原類字在所大和國あり十津川
乃温泉よして傳りぬ爰延明田といふ

やまらむ

乃温泉よして落乃鳴流ゆま

新字在所大和國

湯原

乃温泉よして落乃鳴流ゆま

泉

八雲山折大和國とあり古録よ十津川

の泉の系也あり是よりして一徑あり

壬二

仙人乃てとて文系を泉川後なるる春を

白川後七百頃 白川後七百頃 水色泉乃松川よと流

龍門寺

芳野郡宇陀郡乃流あり礎の

龍門寺と義剛僧正乃撰述あり

貞

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

右寄

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

八雲山折大和國あり

乃龍門乃流とんくあり

乃龍門乃流とんくあり

万葉 長野乃宮の行幸給ふ時
御入の御ももり宿業乃三升はまの鳴
皇子

安野野

万葉 仙覺抄大和國青野山乃こよありと
あは乃野の宿の旅今らさひさひの縁のやのいの人

東野

歌莖集よまうくは東野の青野の安

騎乃肉とまうく藤原乃青野の安

騎野同若あは乃のとのともこあり

万葉 東野乃焼乃さりあまそ入り月をれ月を
東野乃焼乃さりあまそ入り月をれ月を

萬葉野の雲の雲は晴れと社まをり盛り下
御

御垣

河海抄よまうく水垣東と衣ああり縁は

水垣よまをうく水あり水乃抄とあり

同平あり八雲水抄物撰若所藤原大

和國あり三芳野乃みるにが原とほむむ

久空百首 刺とまう

千五百首 震つり雪を清む水野の山垣が原よ若れつん歌

師兼千首 春まぬく三原の原も杉書さあり水野の山

三芳野乃山の若を清む水垣が原とほむむ

大峯開基

史大峯の役優婆塞けり若くひの記後

藤乃とがねの程よ聖実僧正の記

靈山記空しくせんやまうく史の関記

あり叙 後小角又ハ後行者又ハ後優婆塞と云ふ大
和國葛城上郡丹波村乃人ありて高野山氏
なり舒明天皇六代より高野山氏より
してひろく崇むべし佛法と云ふと云年此二心
ひししと云うはけり此乃最良よと云らあり藤を
ここのやうに松の葉にひしめやうて死産的
玉の呪と云ふへくみぬ乃雲のあり仙宮ありて
後二乃鬼神さあつりて水本と云ふんせきと
まゝくけりふまゝと云ふはまじき事ありて
うげり此の最良と云けりんとして一高野山
と云ふめ高野乃高野山と云ふも高野山大士と
物と云ひるごとくまじき事ありて高野山

了んて一後小文律天皇大寶元年六月七日
年六十八ありて母高野山氏大行乃葉氏は
うへに高野山氏と云ふは後行者と云ふは高野山
照法師もありあり時新羅乃山守ありて
ひししと云ふは虎よありひししと云ふは後行者乃
後行者乃虎ありて祠と通ずと云ふは師鍊高
と云ふは高野山と云ふは高野山と云ふは高野山
なり新書 高野山と云ふは三年より一度り高野山と
あり乃高野山と云ふは高野山と云ふは高野山
ありひししと云ふは高野山と云ふは高野山
よておつと云ふは高野山と云ふは高野山
七と云ふは高野山と云ふは高野山と云ふは高野山

高野山神名帳十座延喜

香野水分神社
大若持神社
金澤神社
波賣神社
川上鹿鹽神社

香野山口神社
丹生川上神社
高押神社
波比賣神社
俣波多神社

和列舊跡幽考第十一卷終

